

6月28日

殉教者主教イレナエウス

Ειρηναίος

(130頃～200頃)

～異端への反駁者～

<人名事典などでの別表記：エイレーナイオス>

「平和をもたらす人」という意味の名前を持つイレナエウスは、小アジアのスムルナ出身とされています。その誕生の年は97年から160年の間で、諸説あります。また、使徒ヨハネの弟子であった司教ポリュカルポスの弟子であったという話を伝えられています。

彼は今のフランスにあたるガリアに行き、リヨンの司祭となります。177年にローマ皇帝が帝国全土にキリスト教の禁教令を出した際、イレナエウスは話し合いをするために、リヨンからローマへと派遣されます。しかし、その間おこった迫害のために、リヨンでは多数の信者が殉教してしまいます。リヨンに戻ったイレナエウスは、殉教によって亡くなった司教の遺言に従って、リヨンの司教となります。

彼は、教区内の信者と理解しあうために、当時多くのインテリが使っていた母国語のギリシア語ではなく、地元の言葉を使いました。

また彼は多数の著書を記しました。その中でも「異端反駁」は全五巻にわたるもので、教父たちによる引用などの中でしかその存在はわかっていませんが、彼が当時の異端、特にグノーシス主義との



「聖エイレーナイオス」

論争を行っていたことがうかがえます。

イレナエウスは、司教職の継承によって保証される使徒伝承を重視しました。彼は多くの教えを過去の教父たちから受け、そしてそれを後代に継承していきました。「使徒たちの使信の説明」も彼によって書かれたものです。

さて、190年に教皇ヴィクトル1世が復活祭の期日について、小アジアの教会に考えを押し付けようとしたことがありました。しかし、イレナエウスは調停役を買って出て、柔和と寛大さをもって接するようにすすめたそうです。まさに彼の名前「平和をもたらす人」として行動したとされています。

彼は殉教者と言われていますが、殉教した場所や状況などはわかっていません。

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者主教イレナエウスに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。
アーメン